

埼玉アートシアター通信

2016 5月-6月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.63

さいたまネクスト・シアター×さいたまゴールド・シアター
『リチャード二世』ルーマニア公演レポート

藤田貴大ワークショップ公演
『ドカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』

フィリップ・ドゥクフレ カンパニーDCA
『CONTACT-コンタクト』

ピアノ・エトワール・シリーズ



埼玉公演 第10作目記念公演!
コンドルズ埼玉公演2016新作
『LOVE ME TenDER』

CONDORS "LOVE ME TenDER"



ルーマニアに旅をした 100% 蜷川育ちの シェイクスピア

さいたまネクスト・シアター × さいたまゴールド・シアター
『リチャード二世』ルーマニア公演レポート

取材・文●松岡和子 (翻訳家・演劇評論家) Photo●宮川舞子

4月、蜷川幸雄演出『リチャード二世』が国際シェイクスピア・フェスティバルの招聘を受け、ルーマニアのクライオーヴァで上演された。若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」と平均年齢77歳の「さいたまゴールド・シアター」の総勢60名以上の出演者がルーマニアに渡り、蜷川の舞台を海の向こうに届けた。同作の翻訳も手掛けた松岡和子の目を通した現地レポートを送る。



CONTENTS

- 03 〈PLAY〉 さいたまネクスト・シアター × さいたまゴールド・シアター
『リチャード二世』ルーマニア公演レポート
- 06 〈PLAY〉 出演者オーディション開催！
ワークショップ公演
『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』
藤田貴大 Interview
- 08 〈PLAY〉 本場英国からやってくる、シェイクスピア劇
オックスフォード大学演劇協会 (OUDS) 『夏の夜の夢』
- 09 〈PLAY〉 一夜の不思議な物語……夏休みは、舞台で旅をする！
ラ ヌー・テアトル 『NOX (ノクス) ～夜のふしぎ～』
- 10 〈DANCE〉 コンドルズの“今”を全力投球できる埼玉公演
コンドルズ埼玉公演2016新作『LOVE ME TenDER』
勝山康晴 × 佐藤まいみ
- 12 〈DANCE〉 フィリップ・ドゥクフレ カンパニーDCA
『CONTACT-コンタクト』
ゲーテとロックとダンスの出会い——天オドゥクフレのスーパーミュージカル
- 14 〈MUSIC〉 ピアノ・エトワール・シリーズの10年
これまで、と、これから、のエトワール(星)たち
- 18 REPORT 彩の国レクチャー・シリーズ「地域づくりと文化施設」—さいたまの美術館から—
- 19 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 〈COLUMN〉岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

[表紙] コンドルズ・近藤良平 Photo◎HARU
編集◎川添史子、榊原律子 デザイン◎柳沼博雅

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.May 2016 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2016年4月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

埼玉 **アーツシアター** 通信

2016 5月-6月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.63



Richard II
William Shakespeare
Saitama Arts Theatre, Japan
Directed by/Regizor: Yukio Ninagawa

『リチャード二世』、 第3回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞 贈賞式レポート

『リチャード二世』がルーマニアに旅立つ数週間前、ハヤカワ「悲劇喜劇」賞の贈賞式が行われ、スタッフ&キャスト総勢100人が喜びに顔を輝かせながら集結した。この賞は「選考委員と批評・評論家の劇評意欲をもっとも奮い立たせる優秀な演劇作品」に与えられ、受賞作はその年のなかから1作品のみが選ばれる（受賞対象は2015年の初演）。英国の作家トム・ストッパードからの祝辞や、療養中の蜷川からも「嫌いなリハビリを頑張っ、早く稽古場に復帰したい」というコメントも紹介され、会場は一気に盛り上がった。

メンバーを代表して内田健司（さいたまネクスト・シアター）と重本恵津子（さいたまゴールド・シアター）が、会場を埋め尽くす人たちの前でスピーチ。内田は、イメージ豊かに紡がれた『リチャード二世』が、みなで協力して立ち上がったといった稽古場の様子を朴訥ながらもチャーミングな描写で表現した。「ゴールドに入ったのが80歳で今は90歳」というコメントに会場から驚きの声が上がった重本が、力強い声で感謝を述べると拍手喝采。舞台をともにつくり上げた〈戦友たち〉はしばし当時の思いを語り合い、ルーマニアでの戦いの前の、褒美のような時間となった。



©公益財団法人早川清文学振興財団



Saitama Next Theatre × Saitama Gold Theater “Richard II” in Romania

100%蜷川育ちのシェイクスピア、『リチャード二世』がルーマニアのクライオーヴァまで旅をした。

初演は2015年4月、プログラムの表紙には「さいたまネクスト・シアター第6回公演」とある。だが今年2月の再演のそれに記されているのは「さいたまネクスト・シアター×さいたまゴールド・シアター」。平均年齢は片や27歳、片や77歳という若者と高齢者の劇団だ。どちらも蜷川さんが自らオーディションでメンバーを選び、千本ノックを浴びせるように厳しく鍛えてきたのだが、この『リチャード二世』が初めての完全ジョイント公演である。舞台に立つ面々ばかりでなく、裏で支えるスタッフもほとんどがさいたま芸術劇場専属だし、そうでなくても蜷川さんとは十数年の付き合いの面々ばかりだ。だから100%蜷川育ち（ちなみに『蜷川育ち』の©はその筆頭格である大石継太さん。『ヴェローナの二紳士』の稽古中に彼が発した言葉だ）。

ルーマニアの首都ブカレストから西へバスで延々4時間の所にある商業都市クライオーヴァ。ここに3年に一度の国際シェイクスピア・フェスティバルが生まれたのは22年前の1994年だが、2006年からは2年毎になり、その間ピーター・ブルックやロバート・ウィルソンを始め世界に冠たる演出家によるシェイクスピア劇が招聘されてきた。当初から蜷川シェイクスピアの上演を望んできた当フェスティバルのディレクター、エミル・ボロギナさんはこの『リチャード二世』で願いが叶い、終始上機嫌だった。

翻訳者として蜷川育ちを自認している私もキャストの皆さんに同行した。感銘を受けたのは、道中の飛行機やバスでの荷物の上げ下ろしに始まり、ネクストの誰もがゴールドのメンバーに何くれとなく力を貸し、心を傾けていることだ。「自分の息子にもこんなに優しくしてもらったことない」とは、ゴールドのある女優さんの弁。

紋付袴と黒留袖の男女を乗せた車椅子の波が遠くから寄せてきて、やがてタンゴへと高まる衝撃的なオープニングの、あの老若の息の合い方は一朝一夕に成るものではなく、やはり蜷川さんの日ごろの薫陶の賜物だと深く納得したものだ。

16分続いたカーテンコール

スタッフはキャストより5日前に現地入りしていたが、どうやら難題が山積。それを乗り越えての仕込みと、パーフェクトな字幕オペレーションのお陰もあり、随所で狙いどおりの笑いが起き、ルーマニアの観客はまるで日本語が分かるかのように的確な反応を示した。それはクライオーヴァの大学の演劇専攻の学生を入れたゲネプロでも確かめられた。アクティング・エリア全面を覆う波布、キリストの磔刑を思わせるリチャードの姿、宙を飛ぶ王冠などに身じろぎもせず集中しているのがこちらにも肌で感じられた。ゲネプロなのに終わると総

立ちだった。

本番でもスタンディング・オベーションと二拍子拍手のカーテンコールは16分も続いた。ここへ来てまた一段と完成度が上がったと私自身も思う。

具体的にどんなふうに受け止められたかを知りたくなった私は、日本とルーマニアの演劇交流には不可欠の存在である志賀重仁さん（本公演には通訳として参加）に水を向けた。志賀さんは舞台美術家のオクタビアン・ネクライ氏に感想を聞いてくださった。それを要約すると――

「日本のかつヨーロッパ的であり、美しく分かりやすい素晴らしい舞台だった。特に注意を引かれたのは、若い役者たちと年配の役者たちの登場だ。その数もさることながら、車椅子を押して舞台奥から出て来る様、またタンゴをリズムよく一緒に踊る様は、あたかも家族の一体感と緊張感を思わせるとともに、世の中が常に異なる世代が互いに競い、補い合い、助け合って進んで

行くことを象徴しているようでもあった。早い舞台転換を含むこのような舞台作りを観たのは初めてで、大きな感銘を受けた」

また、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジで演劇と舞台芸術の講座を持つマリア・シェヴツォーヴァ教授は、公演を二回とも見て「蜷川のマスターピース（傑作だ）」と言い切り、「老いも病も含む彼のすべてが込められている」と目をうるませた。内田健司のリチャードと豎山隼太のボリングブルックとの鮮やかな対照に強い印象を受けたようで「ボリングブルックとしての彼の胸中には火がある。それが激しく燃えれば燃えるほど、リチャードは高々と上昇して天使になる」と評した。

蜷川さんはまた一つ伝説的な舞台を世界に送り出した。そして、蜷川育ちのみんなをここまで連れてきてくれたのだ。

—この2月に上演予定だった『蝮の綿-Nina's Cotton-』は蛭川幸雄さんの療養のために蛭川演出版、藤田演出版ともに延期。代替公演としてマームとジブシーは過去3作品を再構築して彩の国さいたま芸術劇場 小ホールで上演しました。

代替も行わず公演中止にするという手段もあったと思うし、マームだけ『蝮の綿〜』を上演することもできました。でもいくつかの選択肢から「代替公演をやる」という道を選んで良かったと思っています。あそこで引き下がったら後悔していたと思うんですよ。何十年経ってもマームのメンバーは、あの蛭川さんのいなかった時期を劇場の空間と取り組みながら考えたことを思い出してくれると思うし、劇場の皆さんが蛭川さんを待ち続け、そこに希望を見いだそうとしていた姿を目撃できたことが、この

先の演劇人生としてもよかったと思える経験でした。

—藤田さんが過去につくった「夜」と「不在」をモチーフにした作品なのに、どこかで療養をしている蛭川さんのことを重ねてしまう……という舞台は、観客としても体験したことのない感触でした。

僕のパーソナルな記憶が、いつしか僕だけの話じゃなくなっていく—演劇って、そうやって観客の数だけの角度が生まれていくものですけど、あれはそれともちょっと違ってたんですよ。内容的には蛭川さんとは全く関係のない作品なのに、あそこで扱われている「いない人」が蛭川さんだと思えてくる、そういういい意味での限定的な見方ができたのは、もしかして、表現としても演劇の新しい領域に踏み込めたんじゃないかと思っています。

—小ホールをほぼ素舞台で使った演出は劇場空間と溶け込み、ビタリとハマった光や音から浮かぶ風景が、いつも以上に解像度が高い感じがしました。

それはやはり、稽古の段階から劇場が使えるというクリエイションによって、短時間では読み解けないような空間の掴み方ができたんだと思うんです。本当に贅沢なつくり方をさせてもらいました。マームとジブシーは、横浜の急な坂スタジオを拠点に創作をしたり、20代の早い段階から発表する場所だけではなく、毎日そこへ行けば創作できるアトリエのような環境を突き詰めてきたんです。その手法が、彩の国さいたま芸術劇場に出合ったことによって更新された気がします。でき上がった舞台だけではなく、作品ができるまでのプロセスも良くありたい。そういう丁寧な作品づくり

の環境が「整ってきた」という達成感もありました。

蛭川との再対決に向け

—8月のワークショップ公演は、そういった経験を踏まえての作品になりそうですね。現在の構想を伺えますか？

今度の公演は僕の舞台経験者を入れずに、出演者を全員オーディションで選びます。あと、2月はマームとジブシーの公演を劇場の皆さんがサポートしてくださったという形でしたが、今回はスタッフもほぼ劇場スタッフの方たちとやろうと思っています。僕自身、裸一貫で、さらに踏み込んで劇場と作品をつくりたい。蛭川さんがどうやって劇場のスタッフの方たちの、このクリエイティブな雰囲気を生み出したのかすごく気になっていて、それはきっと、蛭川

さんは役者だけではなく、それと同じ体力でスタッフとかかわってきたからだと思うんです。『蝮の綿〜』はいつかやりたいと強く思っていますし、ある意味、蛭川さんとの演出対決を仕切り直すわけだけど、その時まで、もっといろんなことを勉強しておきたい。なので夏は「夜三作」の時よりも、もっと進んだクリエイションをやりたいと思っています。

—2008年初演『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』を再構成します。

『ドコカ〜』は、福知山線の脱線事故が着想点の作品で、23歳の時、自分の作品の構造や、自作がどうありたいかをじっくり考えて書いた作品。僕の戯曲に初めてリフレインが登場した作品なんです。それを僕の作品経験のない、全く新しいメンバーとや



マームとジブシー「夜、さよなら」「夜が明けないまま、朝」「Kと真夜中のほとりで」

るといのはリスクかもしれません、この劇場では前のめりで創作ができるので、一歩進んだところでやりたいと思っています。もちろん作家として、ストーリーの流れやテキストは担っていくんだけど、集まったメンバーの言葉も抽出して劇中で使っていきたい。ここ埼玉に集まった人たちとやるっていうことに重点を置いた作品にしたいですね。

8月、再び埼玉での創作に挑む

ワークショップ公演

『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』

Interview

藤田 貴大

この夏、彩の国さいたま芸術劇場発、藤田貴大の新たな取り組みが始まる。2月に埼玉で上演されたマームとジブシー公演を振り返ってもらいつつ、その経験を生かす8月へ向けての構想、意気込みを聞く。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 細野晋司

藤田 貴大
Takahiro Fujita

1985年北海道伊達市生まれ。マームとジブシー主宰。演劇作家。桜美林大学文学部総合文化学科にて演劇を専攻。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。『かえりの会図、まっただ食卓、そこ、きつと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞、『cocoon』（2015年再演）で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。

出演者募集!

ワークショップ公演

『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』

[作・演出] 藤田貴大

◆出演者オーディションスケジュール

[第一次選考] 5月28日(土)・29日(日)
[第二次選考] 5月30日(月)・31日(火)
[最終選考] 6月1日(水)

※選考の日は主催者にて指定させていただきます。
※オーディション会場は彩の国さいたま芸術劇場です。

◆応募資格

稽古から本番まですべて参加できる方。
※年齢不問・演技経験不問。ただし、独力で稽古や公演に参加できる方。
※未成年者は保護者による同意書を第一次選考時にご持参ください。
※稽古・本番は8月1日～28日(於・彩の国さいたま芸術劇場)を予定。

◆応募方法

メールで件名を「藤田貴大作品出演者オーディション」として、以下の内容を送信してください。

- ① 名前(ふりがな)
 - ② 性別
 - ③ 生年月日・年齢
 - ④ 所属(劇団や所属事務所等があれば)
 - ⑤ 連絡先(住所・電話番号)
 - ⑥ 志望動機
 - ⑦ その他(選考日時の希望等があれば)
- メール受信後、48時間以内に第一次選考の日時をメールにてご連絡いたします。応募アドレスからのメールが受信できるように、ご自身のメールソフトの設定をお願いします。なお、第一次選考当日に履歴書(形式自由、上記①～⑦は必ず明記)と写真(顔正面・全身)をご提出ください。
※個人情報取扱いについては、当財団ホームページでご確認ください。

◆応募締切

5月20日(金)24:00

◆応募アドレス

audition2016@saf.or.jp

◆お問合わせ

彩の国さいたま芸術劇場(演劇担当)
048-858-5503(火～土13:00～18:00)

公演詳細は次号にて発表!

本場英国からやってくる、 シェイクスピア劇

オックスフォード大学演劇協会 (OUDS)

『夏の夜の夢』



『ロミオとジュリエット』(2015年) Photo©引地信彦

今年は、シェイクスピア没後400年。シェイクスピア生誕の地、英国からやってくる、オックスフォード大学演劇協会 (OUDS)、恒例の夏公演が記念すべき本年も上演される。

日本では、2000年の『冬物語』からほぼ毎年、ブリティッシュイングリッシュによる原語上演で本格的なシェイクスピア劇を上演しているOUDS。昨年の『ロミオとジュリエット』では、ロミオを女優が演じ、同性愛者の結婚が合法化した未来のヴェローナを舞台にするという、実験的な舞台を見せてくれた。

今年の演目は、4人の恋人たちと妖精たちの繰り広げる恋の駆け引きを描いた人気戯曲『夏の夜の夢』。アテネの森を舞台に展開する一夜の恋の大騒動を、若い感性がほとぼる演出で立ち上げる。

英国でもっとも歴史ある学生劇団による“夏夢”を、どうぞお楽しみに。

発売日 一般 6.18(土) メンバーズ 6.11(土)

オックスフォード大学演劇協会 (OUDS)
『夏の夜の夢』

8.7(日)開演13:30 英語上演/日本語字幕付き

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【作】W.シェイクスピア 【演出・出演】OUDS劇団員(オックスフォード大学演劇協会)

チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 一般2,500円/U-25*2,000円/高校生以下1,000円

※本公演のメンバーズ料金の設定はございません。

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



About OUDS

Oxford University Dramatic Society

1885年に創設され、130年もの間若い才能を生み出し続けている、英国でもっとも歴史ある学生劇団。演出家のケネス・タイナン(ナショナル・シアター所属)、多くのシェイクスピア作品で活躍したリチャード・バートンやジョン・ギールグッド、コメディアンローワン・アトキンソン、映画や舞台で活躍する俳優マギー・スミス、ジュディ・デンチ、ヒュー・グラントなど、国内外で活躍する人材を、多数輩出している。



『じゃじゃ馬馴らし』(2010年) Photo©池上直哉



『から騒ぎ』(2012年) Photo©池上直哉



『ロミオとジュリエット』(2015年) Photo©引地信彦



STORY

おはなし

一日に疲れ果てた男がスリッパを脱いでベッドに横たわり、布団をかけ、寝る準備をしている。するとあら不思議……ベッドにいたはずの男の姿が見えなくなり、部屋の入り口に立っている。男は何度も寝る準備をするが、その度に入り口に戻ってしまう。すると電気はチカチカと点滅し、毛布は自由に部屋を動き回り、ラジオがしゃべり、金魚は鉢から飛び出して荷造りをし始め……。

ラヌー・テアトル『NOX(ノクス)～夜のふしぎ～』

一夜の不思議な物語……

夏休みは、
舞台上で旅をする!

Photo©Yves Gabriel



この夏、海外からチャーミングな子ども向け作品がやってくる。ベルギーのカンパニー「ラヌー・テアトル」による舞台のテーマは、〈夜に起きる不思議なこと〉。一人の男を主人公にしたセリフなしの物語が、夢を見ているかのような情景で紡ぎ出される一幕だ。

1996年に設立された同劇団は、子ども時代の記憶や心象風景、そこにひそむ願望や疑問をすくい取る作品を生み出しており、今回来日する『NOX』は、これまでに国内外において300回以上の上演回数を数えている。

詩情とユーモアが入り混じる一夜の夢。子どもから大人まで、幅広い年齢層が楽しめる舞台を、どうぞお楽しみに。

発売日 一般 6.18(土) メンバーズ 6.11(土)

ラヌー・テアトル
『NOX(ノクス)～夜のふしぎ～』

8.9(火)開演15:00・10(水)開演11:00/15:00

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

チケット(税込) 全席自由

大人2,000円/子ども(4歳以上中学生以下)1,000円

※本公演のメンバーズ料金の設定はございません。

※3歳以下のお子様のお入場はご遠慮ください。 ※上演時間 約50分



コンドルズの“今”を全力投球できる埼玉公演

コンドルズ埼玉公演2016新作 『LOVE ME TenDER』



コンドルズ プロデューサー

彩の国さいたま芸術劇場ダンス部門プロデューサー

勝山康晴 × 佐藤まいみ



彩の国さいたま芸術劇場、初夏の風物詩となったコンドルズ公演。

今年は初回から数えて10作目！ということで、
コンドルズのプロデューサー勝山康晴と、当劇場ダンス部門プロデューサー佐藤まいみの
〈ダブルプロデューサー対談〉で、埼玉公演を振り返る。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子

佐藤 今日は埼玉での第1回公演『勝利への脱出 SHUFFLE』から昨年『ストロベリーフィールズ』までのチラシをひと目でわかるように並べて見てみたのですが……。こうして見るとコンドルズの変遷が感じられますよね。

勝山 非常に感じられますね(笑)。チラシのビジュアルも、作品の内容も『白と黒のナイフ』(2009年)からガラッと変化していて、ここから埼玉色が始まったのが一目瞭然です。この公演で初めて、床面を白と黒に塗り分けたんですよ。ここから、床に凝りだす(床面シリーズ)がスタートしました。

佐藤 そうでしたね！ この公演からチラシの文章も、勝山さんならではの心をとらえる文章センスが強く出ていますよね。広大な劇場空間の使い方も、掘り込まれた公演だった気がします。

勝山 新メンバーが入り始めたのもこのあ

りからですし、『白と黒〜』の前までは、埼玉公演は東京でやった舞台の構成を入れ替えた、カバー作品だったんですよね。今も忘れない、『白と黒〜』の前年にやった『大なる幻影』(2008年)は、こういったらなんですか、われわれの中では「超失敗作」と言われていまして(笑)。

佐藤 えー！ そうなんですか？ そう言われてあらためて見てみると、チラシもこれだけ白っぽくて、寂しい感じに見えてきます……。 (笑)。

勝山 超失敗作というのは「挑戦」がなかったからなんです。単に構成を入れ替えたカバー作品といっても、それまでの作品はその入れ替えに何かしらの「挑戦」があったんです。けど、『大なる〜』では挑戦ができなかった。で、「この手法は捨てよう、気合いを入れて、完全新作を創って、埼玉公演の取り組み方に白黒つけよう！」ってことで翌年のタイトルに〈白と

黒〉が付いたという(笑)。

佐藤 内部では、そういう反省会があったわけね(笑)。適当につきあっていたガールフレンドの1人だったけど、真心が芽生えたってことかしら(笑)。

勝山 このへんで腹をくくって、ちゃんときあうか……って(笑)。いやいや、最初からちゃんときあってましたよ！

埼玉だからこそ、新作を

勝山 コンドルズのメンバーも、埼玉でのクリエイションはアイデアが活発に出て来るし、去年とは全く違うオープニングでやりたいと毎回、気合いが入っています。埼玉はほかで使えない曲も使えるというか、僕の選曲の幅も広がる。

佐藤 『ストロベリーフィールズ』で使った「君の瞳に恋してる」なんて珍しい選曲でした。

勝山 そうですよ。曲のバリエーション

は埼玉で増やさせてもらってます。あと、コンドルズって基本、メンバーが変わらないから、年齢とともに劣化していくと取られかねない。それだからこそ、音楽だけはロック界で今一番新しくてカッコいいものを使い、そこで新鮮さを出したいという強いこだわりがあるんです。昔の曲で踊ることもできるけど、そうやっちゃうと、本当に変わらない集団になっちゃうので。「僕たち、年くっても最先端の集団のつもりですよ」っていう表明。そこには力を注ぎたいんです。

佐藤 新作『LOVE ME TenDER』の音楽は、すでに考え始めていますか？

勝山 まあ、タイトルの曲は使うでしょうけど(笑)、今はまだ鋭意選定中です。(近

藤) 良平さんとも相談ですけど、内容的には、社会情勢は反映したいですね。キナクさい社会状況にかんしては、アートをやれるものとしては無視できない。どのへんを切り取るかは分からないですけど……。佐藤 『ひまわり』(2014年)あたりから、社会に対するまなざしの変化が感じられるように感じます。

勝山 そうですね。やっぱり、コンセプトにつくるのが好きなんだっていうのは、埼玉で続けて来たから気付いたんだと思います。さらに言えば、コンテンポラリーダンス界の片隅にいるカンパニーとしては、まだまだ可能性を切り開いていきたいし、コンドルズも自分たちが売ればいいっていう時代も過ぎました。育てて

もらった劇場、コンテンポラリーダンスというジャンルにも恩返しと社会貢献をしないといけないんじゃないかという意識も高まっています。もう少ししたらアメリカの大統領が同じ年代になるんですよ(笑)。われわれも責任のある年代に突入するので、昔だったら出ないような話題も出ますし、そこは作品で引き受けたいところですよ。

佐藤 わぁ、頼もしい。今後の変ぼうにも注目ですね。『LOVE ME TenDER』ますます楽しみにになりました。

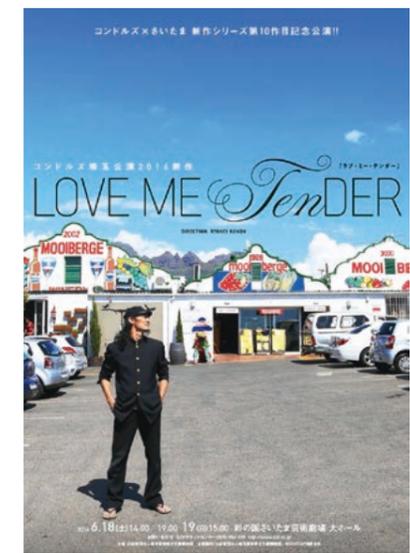


佐藤まいみ
Mami Sato

勝山康晴
Yasuhiro Katsuyama

「横浜市開港130周年記念フェスティバル/ヨコハマ・アート・ウエーブ'89」アーティストティック・ディレクター。「神奈川国際芸術フェスティバル/神奈川芸術文化財団主催」プロデューサーを経て、現在埼玉県芸術文化振興財団(彩の国さいたま芸術劇場)プロデューサー。

コンドルズプロデューサー兼出演者兼ROCKSTAR(有)社長。作家として「コンドルズ血風録」(ポプラ社)などがある。バンドプロジェクト「FF0000」のボーカル。日産、カルピスTVCMなどもタイアップ。作詞作曲担当。静岡SBSラジオ、TOKYO FM、interFM、文化放送などのラジオ番組でパーソナリティも。元桐朋学園芸術短期大学客員教授。マンガ・アニメ・ロック通。



チケット発売中

コンドルズ 埼玉公演2016新作
『LOVE ME TenDER』

6.18(土)14:00/19:00 19(日)15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[構成・映像・振付] 近藤良平 [出演]コンドルズ

チケット(税込)

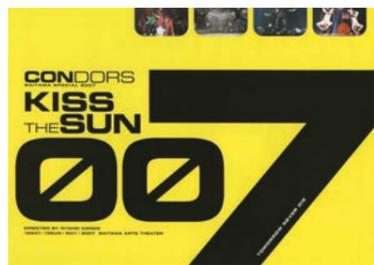
一般 前売 S席5,000円 A席3,500円
U-25* 前売 S席3,000円 A席2,000円
メンバーズ 前売 S席4,500円 A席3,200円

*当日券は各席種とも+500円
*A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。
*演出の都合により、開演時間に遅れまるとお席へのご案内をお待ちいただく場合がございます。予めご了承ください。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

コンドルズ × 彩の国さいたま芸術劇場 2006-



2006年「勝利への脱出 SHUFFLE」



2007年「太陽にくちづけ007 トゥモロー・ネバー・ダイ」



2008年「大なる幻影」



2009年「白と黒のナイフ」



2011年「ロングバケーション」



2012年「十二年の怒れる男」



2013年「アポロ」



2014年「ひまわり」



2015年「ストロベリーフィールズ」

Compagnie DCA / Philippe Decoufle
CONTACT

フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCA 『CONTACT-コンタクト』

ゲートとロックとダンスの出会い——天才ドゥクフレのスーパーミュージカル

ファンタジックで摩訶不思議、魔法のような世界を立ち上げるフィリップ・ドゥクフレの舞台が10月に来日する。ゲート『ファウスト』にインスパイアされた『CONTACT-コンタクト』は、ダンスとライブ演奏の音楽、サーカス、映像が交錯する、ドゥクフレ流のミュージカル!?

文●港 千尋

写真家・著述家。あいちトリエンナーレ2016では芸術監督を務める。現在、多摩美術大学情報デザイン学科教授。

リズム、色彩、映像そして驚異の身体能力。それらが渾然一体となって生まれるフィリップ・ドゥクフレの舞台は、デビュー以来30年以上を経ても、その斬新さにおいてほかに比較できるものがない。カンパニー DCA を率いての作品は、日本ではすでに多くの公演で知られている。前作の『PANORAMA』では過去作の名場面を集めたダイジェストだったことから、もしかするとまとめの時期に入ったかと思ったりもしたのだが、それは単なる勘違いだった。最新作の『CONTACT』は、なんとミュージカル、しかもライブ演奏によるミュージックコメディーなのだ。ドゥクフ

レが未知への挑戦を続けていることを証明するばかりか、振付家としての天分が全面的に開花している快作だ。

ダンス世界のゲート

ミュージカルと言っても、そこはもちろんハリウッドともブロードウェイとも異なるドゥクフレ・ワールドである。ストーリーのベースになるのは、ゲートの『ファウスト』。登場人物もファウスト博士、メフィスト、マルガレーテと、そのままの名前で出てくるのだが、たとえ原作を読んだことがなくても心配するには及ばない。ファウストもメフィストもコミカルで躍動

フィリップ・ドゥクフレ
Philippe Decoufle

振付家・演出家。1983年カンパニー DCA 設立。92年アルベルビル冬季五輪開会式を31歳の若さで手がけ、サーカスとダンスが交錯する奇想天外な演出で一躍世界に知られる。94年『ブティック・ピエス・モンテ』で初来日。2003年日仏中の国際共同製作として『IRIS』を日本初演。DCAでの活動のほか、CM・ミュージックビデオや、パリの老舗キャバレー クレイジーホースのショーを演出・振付するなど、ジャンルを横断して幅広く活躍。現在、ブロードウェイにてサーカス集団 シルク・ドゥ・ソレイユの新作『Paramour』を上演中。

発売日 一般 6.26(日) メンバーズ 6.18(土)

フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCA 『CONTACT-コンタクト』

10.28(金)開演19:00、29(土)・30(日)開演15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出・振付・出演] フィリップ・ドゥクフレ [出演] カンパニー DCA

チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席4,000円

U-25* S席3,500円 A席2,000円

メンバーズ S席6,000円 A席3,600円

*A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。
*演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内ができない場合がございます。予めご了承ください。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
*愛知、新潟公演あり。

◆ピナ・バウシュ ヴェッパタル舞踊団『NELKEN-カーネーション』
(2017.3.16-19)とのスペシャルセット券発売! 詳細はP.21



Photo©Laurent Philippe

Photo©Laurent Philippe

的、マルガレーテはおそらくゲートが想像した以上に魅力的なアーティストである。ドゥクフレのダンスは、未知の動きの発明という性格をもっている。身体の動かし方やその見せ方を研究することによって、新しい単語や文法を生み出そうとしている。『ファウスト』は詩聖ゲートが一生をかけて書き上げたライフワークだが、そこに込められているのは、詩的想像力の探究だ。似たような意味で、『CONTACT』は運動言語とそのビジュアルな探究の成果と言っていいだろう。

ノスフェルと謎の音楽言語

その探究を強力に支えるのがノスフェルとピエール・ル・ブルジョアのライブ演奏である。ノスフェルは、もともとパリで「東洋系の言語」を学び、音楽の道に入っており、今回はオリジナルの歌詞も重要な要素だ。ドゥクフレとの協同ではすでに『OCTOPUS』で音楽を提供している

が、舞台上での演奏が加わることで、これまでの作品より以上に歌の力が強く出ている。ロック、ポップス、実験音楽と幅広いレパートリーに加え、ノスフェルはKlokobetzという謎の言語を使用することでも知られ、ゲートによるオリジナルの詩とともに、未知の言語による歌も聞けるかもしれない。

いつものように舞台装置も見どころである。謎の言語だけでなく、不思議な都市の風景が現れるが、これはマルセル・ストールというパリ生まれの画家の作品に着想を得ている。ストールは20世紀半ばに大量の作品を残した、アール・ブリュット系の作家だが、彼が描く絵はガウディの建築や「シュヴァルの理想宮」を思わせるもので、見る者を迷宮の世界へ引き込んでしまうだろう。

新しい芸術のかたち

サーカスとロックとダンスが、映像と詩

と絵がぶつかり、交わり、新たな形式として出現する。それは21世紀の芸術だが、その底には万物のつながりに秘密の秩序を探し求める占星術や錬金術の世界が横たわっているだろう。

「自然が永遠に切れることのない運命の糸を／気ままに縊りをかけつつ無理にも縊りに巻き取る時／そして雑多多様な万物が……」(柴田翔訳 講談社文庫)

こう語るゲートはこの世界のうちに「誰が躍動するリズムを生み出すのでしょうか」と問いながら、それは「詩人のうちにこそ現れる人間の力」ではないかと考える。その世界では神でさえも迷い、自問自答する。踊りと歌と笑いは舞台だが、その奥には混沌とした世界に、調和を探そうとするアーティストの思想がかいま見える。永遠の若さを夢みる物語は、アートに終わりなき探究そのものとなってわたしたちに手渡されるだろう。

話題の人から個性派まで バラエティ豊かな10年

2007年にスタートしたピアノ・エトワール・シリーズも、今シーズンで10年目を迎える。

ずらりと並ぶ過去の出演者リストを見て感じるの、これまでなんと素敵なピアニストたちが登場してきたのだろうという驚きだ。話題の人から個性派まで、その時々聴いておくべき顔ぶれが、鋭いセンスで選ばれている。

まず、今年1月の登場が決まっていたチョ・ソンジンが、その直前の2015年第17回ショパン国際ピアノコンクールで優勝に輝いたことは、記憶に新しい。これか



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.21
ユジャ・ワンピアノ・リサイタル(2013年) Photo◎加藤英弘

ピアノ・エトワール・シリーズの10年

これまで、と、これから、のエトワール(星)たち

期待の若手ピアニストがいち早く登場し、意欲的なプログラムを披露する「ピアノ・エトワール・シリーズ」。多くのピアノ音楽ファンから好評のシリーズは、今年10年目を迎える。これまでに登場したピアニストは、うれしいことに、いま世界で活躍するスター・ピアニストになっている。この先に登場するピアニストも、後にさらなる大輪の花を咲かせるに違いない。10年の歩みを振り返り、2016年度に登場する4人のピアニストの注目ポイントをご紹介します。

文◎高坂はる香(音楽ライター)

らさらなる飛躍を遂げるであろう才能を見抜き、「エトワール」に選んでいることが示される良い事例となった。

そのほか、挙げていけばきりがなが、シリーズ冒頭を飾った2005年ショパン国際ピアノコンクール優勝者のラファウ・ブレハッチに始まり、今や世界の名門オーケストラから引っ張りだこでトップスターの仲間入りをしているユジャ・ワン、2011年に15歳の若さで名門ドイツ・グラモフォンと契約して注目を集めたヤン・リシエツキといったスターたちも出演。

イリヤ・ラシュコフスキーは出演から5年後の2012年浜松国際ピアノコンクールで優勝。フランチェスコ・トリストアーノは、クリエイティブな演奏活動でジャンルを超えた音楽ファンから熱い視線を集める存在となり、昨シーズン、シリーズ再登場を果たした。

さらに、映像作家ブルーノ・モンサンジョンの作品に20代半ばの若さで取り上げられたことでも知られるダヴィッド・フレイ、強烈な個性を放つブルガリアのピアニスト、エフゲニ・ボジャノフ、若くして



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.28
チョ・ソンジンピアノ・リサイタル(2016年) Photo◎加藤英弘



ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール1 Vol.3
小菅 優 ピアノ・リサイタル(2014年) Photo◎加藤英弘

その存在感に風格が漂うアレクサンダー・ロマノフスキーといった、ピアノファンにとって“ちょっと気になる存在”もしっかり押さえられている。

また、エフゲニー・スドビン、ベフゾド・アブドゥライモフ、ベンジャミン・グローヴナーといった、世界で注目されているながら、今はまだ来日機会の少ないピアニストたちも登場。高い実力を持つ海外の若手を日本の聴衆に紹介する役割も果たしてきた。

日本からは、小菅優や上原彩子、萩原麻未など世界の舞台上で評価されたピアニストたち、北村朋幹や福間洸太郎など、こだわりの音楽づくりで人気上昇中の実力派たちと、日本のピアノ界を牽引する勢いのある面々が名を連ねる。

ピアノ愛好家にとって、このシリーズに選ばれる若手は一度生で聴いておくべきという、バロメーターにさえなっているのではないだろうか。単に日本で話題だというだけでなく、ピアノ界を広く見渡し、先を見通して選ばれた、バラエティに富んだピアニストたちが登場している。



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.26
アレクサンダー・ロマノフスキー ピアノ・リサイタル(2015年)
Photo◎加藤英弘

2016年度の 「ピアノ・エトワール・シリーズ」

今シーズンもこれまでの例に違わず、今聴いておくべきピアニストが顔をそろえる。まずは、秋以降に登場するこのシリーズ初登場の3人をご紹介します。

Vol.29 田村 響

熟成と確信 聴きごたえあるプログラム

2007年ロン＝ティボー国際音楽コンクール・ピアノ部門優勝で注目を集めた田村響は、その音楽が熟してきた絶好のタイミングを迎えての登場だ。ザルツブルク・モーツァルテウム留学中、20歳で同コンクールに優勝してから9年。日本に拠点を移した現在は、ソロやオーケストラとの共演、室内楽など幅広い演奏活動の傍ら、京都市立芸術大学で後進の指導にもあたる。



田村 響 Photo◎武藤章

幅広い経験のひとつひとつが音楽に影響を与えているといい、これからの変化も楽しみな人だ。

もともと堂々とした音楽が魅力のピアニストだったが、30歳を目前に控えた今、表現には確信が増し、さらなる自由と余裕を感じさせるようになった。このところのトレードマークとなっている金髪とガッシリした体格のせいかピアニストに見られないことが多い(!)らしいが、実際には、とても繊細で内省的な感性を持つ演奏家だ。

そんな田村が今回取り上げるのは、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第8番「悲愴」、第21番「ヴァルトシュタイン」、そして、ショパンのスケルツォ全4曲というプログラム。ふくよかで厚みのある音で奏でられるベートーヴェン、内心を吐露するような大胆なショパンに期待したい。聴きごたえたっぷりの公演となりそうだ。

Vol.30 ニコライ・ホジャイノフ

詩情に満ちた深遠なる世界へ

天性のみずみずしい音、深い精神世界と独特の哲学を持つ演奏によりファンを増やし続けているロシアのニコライ・ホジャイノフも、ついにエトワール・シリーズに登



ニコライ・ホジャイノフ Photo◎Teruyuki Yoshimura

場する。

ホジャイノフは、2010年、18歳でファイナリストとなったショパン国際ピアノコンクールでの演奏が鮮烈なインパクトを与え、入賞を果たさずとも世界で演奏活動を行うようになった。聴く者の心をとらえる、特別な魅力を持つピアニストだ。その後2012年にダブリン国際ピアノコンクールで優勝するなど、着実にキャリアを重ねてきた。モスクワ音楽院で学んだのち、昨年からハノーファー音楽大学で引き続き研鑽を積むことで、その音楽はまた新しい発展のときを迎えている。

プログラムは、ホジャイノフならではのこだわりが見える、詩情あふれる内容。ショパン演奏において評価の高い彼の美点が生きる《アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズ》に加え、演奏機会の少ない、リスト他による《ヘクサメロン》(ベッリーニのオペラ《清教徒》の行進曲を主題に6人の作曲家が合作した変奏曲)をセレクト。オペラ好きのホジャイノフらしい選曲だ。

そして、プログラムの中心に据えるのはシューマンの《幻想曲》。現実と幻想の世界をさまよう魂の歌を、こだわりぬいた繊細な美音で再現してくれるだろう。響きをすみずみまで味わうことのできるホールで聴けることが、今から楽しみだ。



キット・アームストロング Photo©Jason Alden

Vol.31 キット・アームストロング

ブレンデル絶賛！ 明晰な頭脳と天賦の才

そして、年が明けた2017年1月には、2015年、日本での初リサイタルで特異な才能を披露して話題をさらったキット・アームストロングが、さっそく本シリーズに登場する。

1992年ロサンゼルスに生まれ、カーティス音楽院とロンドンの王立音楽院で学んだアームストロング。弟子をほとんどとらないことで有名なブレンデルに13歳から師事していることでも知られる俊英で、この師が、「これまでに会った最も偉大な才能の持ち主」と評したというから、その潜在能力は確か。作曲も手掛けるうえ、数学の分野でも学位を修めている、多彩な資質の持ち主だ。

来日前から“大変な才能らしい”という噂を方々に耳にしていたが、先のリサイタルでも期待を裏切らない演奏を聴かせてくれた。卓越したテクニックはもちろん、その知性あふれる音楽づくり、芯のある透明な音は、明晰な頭脳と天賦の才が共存していることを証明していた。

今回も、演奏家として、作曲家としての多方面にわたる能力を発揮するプログラムを用意している。バッハのバルティータ

第6番では、緻密な音楽の構成能力と、持ち前の音の美しさを披露することだろう。また自作曲からは《細密画》という作品で、独自の世界観を余すところなく表現する。恩師ブレンデルから学んだという音楽に向かう上での哲学も、随所でみられるに違いない。

ちなみに、アメリカ生まれでアジア系のアームストロングには、8分の1日本人の血が流れているため、日本への親近感も強いそう。コスモポリタンな感性で、どのような音楽を届けてくれるだろうか。

アレクサンダー・ガヴリリュク アンコールの声に答えて7月に再登場！

気鋭のピアニストたちをいち早く続々と登場させるこのシリーズだけに、大変うれしいのが、人気の「アンコール！」公演だ。あのと感動を与えてくれた若いピアニストが、成熟度を増した音楽とともに再び

“彩の国”に戻ってくる。10年間にわたって続いたシリーズならではの企画だ。

今シーズン、そんな「アンコール！」公演で7月に登場するのは、アレクサンダー・ガヴリリュク。2009年、25歳での出演以来、7年ぶりの再登場となる。

2000年、16歳の若さで浜松国際ピアノコンクールに優勝したことで、日本では早くから注目を集めていた彼。将来を嘱望されるピアニストとして演奏活動を始めた矢先の2002年、交通事故で再起不能とまでいわれる重傷を負う。しかし奇跡的な復帰を遂げ、2005年にはルービンシュタイン国際ピアノコンクールに優勝。国際的なキャリアを再スタートさせた。さまざまな困難を乗り越えたゆえか、音楽は一層深く、強く訴えかけるものとなり、来日のたびに心に残る演奏を聴かせている。

今回ガヴリリュクが用意しているプログラムは、彼の多様な表現力を味わい尽くすことができるもの。はかなげな幸福感が

一貫して流れるシューベルトのピアノ・ソナタ第13番、心の内を静かに語りかけるようなショパンの《幻想曲》やノクターン第13番では、ガヴリリュクのあたたかくファンタジーあふれる表現に出会えそう。

一方、プロコフィエフ、ラフマニノフ、バラキレフというロシアものでは、卓越したテクニックとともに、超絶技巧作品の深層に潜んだ複雑な情感を浮き彫りにする。美しい音の持ち主であるが、ときには人間の苦悩や闇を表すため、思い切った音を鳴らす。その特別な音と描写力で、聴く者の心の奥底を揺さぶる。

世界観の異なる作品群で、表現者としての二面性を鮮やかに見せてくれることだろう。

4人の「きら星」を聴く楽しみ

2016-17シーズンも4公演セット券が発売されているが、ピアノ好きなら間違い

なく「買い」のラインナップとわいていい。いずれも今注目のピアニストで、プログラムもそれぞれのピアノで聴いてみたいものが選ばれている。

日本の若い世代を代表する田村響、優秀なピアニストを輩出し続けるロシアが生んだ新星ホジャイノフ、欧米で育ったアジア系という躍進中の層からはアームストロング。ピアノ界の今を俯瞰することができるようなセレクトでもある。

しかも、こうした面々を、ピアノにびつたり音響を持つ、彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールという空間で聴くことができるのもうれしい。響きの良いホールで降り注ぐピアノの音に包まれる幸せは、特別だ。ホール近隣の方はもちろん、都内などにお住まいの方も、少し足を伸ばして訪れる価値がある。

今シーズンも、きら星の輝きで注目を集める若者たちの演奏に期待しよう。

チケット発売中【4公演セット券】【アンコール! Vol.6・Vol.29 1回券】

【Vol.30 1回券】発売日 一般 7.2(土) メンバーズ 6.25(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.6 アレクサンダー・ガヴリリュク Vol.29 田村響 Vol.30 ニコライ・ホジャイノフ Vol.31 キット・アームストロング

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【日時・曲目】

【アンコール! Vol.6】7.16(土)開演15:00

シューベルト:ソナタ第13番 イ長調 D664
ショパン:幻想曲 ヘ短調 作品49
ショパン:夜想曲 ハ短調 作品48-1
ショパン:ポロネーズ第6番 変イ長調 作品53「英雄」
プロコフィエフ:ソナタ第3番 イ短調 作品28「古い手帳から」
ラフマニノフ:練習曲集《音の絵》作品39より
バラキレフ:東洋風幻想曲《イスラメイ》

【Vol.29】9.11(日)開演15:00

ベートーヴェン:ソナタ第8番《悲愴》ハ短調 作品13
ベートーヴェン:ソナタ第21番 ハ長調 作品53「ヴァルトシュタイン」
ショパン:スケルツォ全4曲

【Vol.30】11.19(土)開演15:00

ショパン:アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズ
リスト他:ヘクサメロン
シューマン:幻想曲 ハ長調 作品17 ほか

【Vol.31】2017.1.21(土)開演15:00

スウェーリンク:わが青春はすでに過ぎ去り
アームストロング:細密画
J. S. バッハ:バルティータ第6番 ホ短調 ほか

チケット(税込)

【4公演セット券】一般・メンバーズ 正面席13,500円
※バルコニー席・U-25は予定枚数終了しました。

【アンコール! Vol.6 1回券】
一般 正面席5,000円 メンバーズ 正面席4,500円
※バルコニー席・U-25は予定枚数終了しました。

【Vols.29 ~ 31】各回
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円 メンバーズ 正面席3,200円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書をご提示ください。



アレクサンダー・ガヴリリュク Photo©Mika Bovan



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.9
アレクサンダー・ガヴリリュク ピアノ・リサイタル(2009年)
Photo©加藤英弘

Report

レポート



埼玉県立近代美術館

彩の国レクチャー・シリーズ 「地域づくりと文化施設」 — さいたまの美術館から —



建島哲氏と講義の様子

3月9日、埼玉県立近代美術館にて、文化芸術分野での地域づくりで活躍する方々を迎えて贈る「彩の国レクチャー・シリーズ」が開講された。今回の講師は、同美術館の館長で、多摩美術大学学長、京都芸術センター館長などを務め、美術評論家、詩人としても活躍する建島哲（たてはた・あきら）氏。これまで多くの国際美術展を組織し、アジアの近現代美術の企画にも携わるなど、国内外で広く活躍してきた同氏が、「地域づくりと美術館」について具体的な事例を紹介しながら語った。

前半は、美術館近隣の商店街にアートを出展させる試み「回遊美術館II 北浦和西口銀座商店街アート化計画」などを紹介。また、伝統の街にある先端的なスポットとしてにぎわう「金沢21世紀美術館」を例にとり、その魅力や、土地に経済効果をもたらした理由などを分析。加えて同氏が芸術監督などを務めた「横浜トリエンナーレ」第1回展（2001）、「あいちトリエンナーレ2010」、過疎高齢化の進む越後妻有の里山を舞台にした「大地の芸術祭」など、各地で開催されているアートフェスティバルを取り上げ、美術館という“ホワイトキューブ”を飛び出し、日常のまち（公共空間）で展開されるパブリックアートが持つ地域活性化の可能性について言及した。



近隣商店街を舞台にした作品展示
(回遊美術館II / 2011年12月3日～11日)

後半での質問コーナーでは、市民の皆さんからも活発に質問が飛び交い、ミュージアム・リテラシー（美術館を使いこなす能力）の重要性など、今後の地域との連携へ向け示唆に富む意見が交換された。

Review

レビュー

MUSIC

「次代へ伝えたい名曲」第6回 小山実稚恵 ピアノ・リサイタル 3.5(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



Photo©加藤英弘

劇場と縁の深い小山実稚恵の登場とあって大勢のファンが来場し満員御礼。ホール全体が親密な空気に包まれた温かなリサイタルとなった。シューベルト《即興曲》は響きを慈しむように奏で、バッハ《シャコンヌ》は劇的な第1音から最後の二長調の和音まで、プゼニ編曲ならではの崇高なドラマを聴かせた。今回初披露となったバルトークのピアノ・ソナタは、激しい打鍵と躍動感が圧巻。ソロで演奏するショパンのピアノ協奏曲第2番第2楽章は、色合いの変化が管弦楽付きよりも一層繊細に響き、作品の本質が聴こえてくる。「英雄」ポロネーズは、東北復興への思いがこめられた力強い演奏に胸が熱くなった。

RAKUGO

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～精鋭若手落語会 4.15(金) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



柳家三三 Photo©加藤英弘



三遊亭彩大 Photo©加藤英弘

三遊亭遊馬 Photo©加藤英弘

勢いのある若手が集結した落語会。開口一番は春風亭昇羊『寿限無』。愛らしい丁稚の造形が魅力的な立川志の八『悟気の独楽』、生徒が一人しかいない小学校の騒動を描いた新作を、笑い満載で演じた三遊亭彩大『島の学校』、町人を生き生きと表現した三遊亭遊馬『妾馬』と、どの高座も会心の出来。場内が笑いで温まったところに登場したトリの柳家三三には「待ってました！」のかけ声が掛かり、客席の期待は最高潮に。演じたのは、町内の連中が集まって素人芝居をするドタバタを描いた『蛙茶番』。間もテンポも抜群の語りぶり、実力を見せつけた。

MUSIC

発売中 【4公演セット券】【アンコール! Vol.6・Vol.29 1回券】

【Vol.30 1回券】発売日 一般 7.2(土) メンバーズ 6.25(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.6
アレクサンダー・ガヴリリュク
Vol.29 **田村 響**
Vol.30 **ニコライ・ホジャイノフ**
Vol.31 **キット・アームストロング**

音楽ホール 

発売日 一般 6.4(土) メンバーズ 5.28(土)

イザベル・ファウスト
&クリスティアン・ベザイデンホウト
オール・バッハ・プログラム

10.10(月・祝) 15:00 音楽ホール

【作曲】J. S. バッハ：
ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第3番 ホ長調 BWV 1016
無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ短調 BWV 1003
ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第1番 口短調 BWV 1014
トッカータ ニ短調 BWV 913
ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第6番 ト長調 BWV 1019

チケット(税込)
一般 正面席7,000円 バルコニー席6,000円
U-25*(バルコニー席対象)3,000円/メンバーズ 6,300円

発売日 一般 6.4(土) メンバーズ 5.28(土)

レ・ヴァン・フランセ

10.22(土)15:00 音楽ホール

【出演】エマニュエル・バユ(フルート)、
フランソワ・ルルー(オーボエ)、ポール・メイエ(クラリネット)
ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)、
ジルベール・オダダン(バソーン)、エリック・ル・サーージュ(ピアノ)
【作曲】オンスロー：木管五重奏曲へ長調 作品81
ブーランク：六重奏曲 ほか

チケット(税込)
一般 正面席6,000円 バルコニー席4,500円
U-25*(バルコニー席対象)2,000円/メンバーズ 5,500円
※中高生対象の公開リハーサル開催予定!

発売日 一般 6.4(土) メンバーズ 5.28(土)

バッハ・コレギウム・ジャパン
J. S. バッハ《ミサ曲 口短調》

11.12(土)15:00 音楽ホール

【出演】鈴木雅明(指揮)
朴 瑛実、ジョアン・ラン(ソプラノ)
ダミアン・ギヨン(アルト)
櫻田 亮(テノール)
ドミニク・ヴェルナー(バス)

チケット(税込)
一般 正面席8,000円 バルコニー席7,000円
U-25*(バルコニー席対象)3,000円/メンバーズ 7,200円

発売日 一般 7.1(金) メンバーズ 6.25(土)

加藤訓子 PROJECT IX
— PLEIADES (ヤニス・クセナキス)

10.29(土)・30(日)14:00 小ホール

【作曲】クセナキス：プレリアデス
クセナキス：ルボン
チケット(税込)
全席自由 一般 5,000円/メンバーズ 4,500円
【主催】kuniko kato arts project
【共催】公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

発売日 一般 7.2(土) メンバーズ 6.25(土)

NHK交響楽団
12人のチェリストたち

11.5(土)14:00 音楽ホール

【出演】藤森亮一、向山佳絵子、藤村俊介、
桑田 歩、銅銀久弥、山内俊輔、西山健一、
三戸正秀、村井 将、宮坂拓志、渡邊方子、市 寛也
【曲目】クレンゲル：賛歌
三枝成彰編曲：日本の歌
三枝成彰編曲：ビートルズ・メドレー ほか

チケット(税込)
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円/メンバーズ3,200円

発売日 一般 7.2(土) メンバーズ 6.25(土)

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第8回

藤原真理 チェロ・リサイタル

12.10(土) 14:00 音楽ホール

【曲目】ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第1番 へ長調 作品5-1
林 光：チェロ・ソナタ「十月の歌」ほか

チケット(税込)
一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象)1,500円/メンバーズ3,600円

50セット限定チェロセット券 発売日 一般 6.11(土) メンバーズ 6.4(土)

◆NHK交響楽団 12人のチェリストたち
◆彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」第8回
藤原真理 チェロ・リサイタル

チケット(税込) 一般・メンバーズ 正面席6,500円/バルコニー席5,500円
U-25*(バルコニー席対象)2,500円


チケット購入方法について

インターネット

 SAF オンラインチケット
で、発売初日10:00 から
公演前日23:59まで
受付いたします。

 【PC・携帯共通】
http://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 ①クレジットカード決済 ②コンビニ発券
または③コンビニ支払い

※チケット代他に、店頭発券手数料
(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 ①クレジットカード決済 ②コンビニ発券
または③コンビニ支払い

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 ①クレジットカード決済 ②コンビニ発券
または③コンビニ支払い

※チケット代他に、店頭発券手数料
(チケット1枚につき120円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場窓口(10:00～19:00)で直接購入
いただけます。電話予約したチケットの引取もできます。

※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ ①口座引落

一般 ①現金 または ②クレジットカード決済

その場で
チケットを
お渡しします。
※手数料は
かかりません。

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
TEL:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

●電車でのアクセス
JR埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
●バスでのアクセス
JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き
JR彩の国さいたま芸術劇場入口)下車 徒歩2分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。
※埼玉会館は施設・設備の大規模改修工事のため、2017年3月31日まで(予定)休館となります。

INFORMATION

65歳以上の出演者、大募集中!

埼玉から発信する世界最大級の群集劇に、あなたも参加しませんか! テーマは「老人の夢!」シルバー世代がゴールドに輝く舞台が、ここにあります!



【公演概要・募集要項】

1万人のゴールド・シアター 2016

【総合演出】 蛭川幸雄

【公演日】 2016年12月7日(水) 【会場】 さいたまスーパーアリーナ

【対象】 ①65歳以上(2016年12月31日時点の年齢)

②説明会(6～7月、1回)及び稽古(7月・9～11月、計10回以上)に参加できること。

③12月6日の舞台稽古、12月7日の舞台稽古・公演本番に参加できること。

【参加費】 10,000円(税込) ※稽古料、傷害保険料を含みます。

【応募方法】

①インターネット(パソコン・スマートフォン) 【締切】2016年5月31日(火) 19:00

公式ホームページ【http://www.saf.or.jp/10000/】からご応募ください。

②郵送 【締切】2016年5月31日(火) 必着

応募用紙(募集チラシ裏面、または公式ホームページからダウンロード)に必要な事項をご記入のうえ、下記応募先にご郵送ください。

※詳細は募集チラシ・公式ホームページをご覧ください。

【応募先・お問合わせ】

(公財)埼玉県芸術文化振興財団「1万人のゴールド・シアター2016」係

〒338-8506埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5505(休館日を除く10:00～17:00)

【主催】埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団

【協力】さいたまトリエンナーレ実行委員会

彩の国落語大賞受賞者決定!

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団主催『彩の国さいたま寄席～四季彩亭』に出演した若手落語家のうち、年間でもっとも優れた演者に贈られる「彩の国落語大賞」。平成27年度彩の国落語大賞受賞者が春風亭一之輔に決まり、3月24日に大賞の表彰式が開催されました。一之輔は「歴代の受賞者を見ると、すごい先輩の名前ばかり。ありがたいことです。これからも先輩に食らいつく勢いで、若手には負けないように頑張ります。」とコメント。笑顔で喜びを語りました。受賞者の会は来年1月21日(土)に開催予定(二席披露予定)。詳細は、今後のアーツシアター通信をご覧ください。



謹告

アクラム・カーン&イスラエル・ガルバン 『TOROBAKA-トロバカ』公演中止

2016年5月7日(土)・8日(日)に予定しておりました「アクラム・カーン&イスラエル・ガルバン『TOROBAKA-トロバカ』」について、イスラエル・ガルバン氏の膝の怪我により、誠に残念ながら、公演を中止いたしました。公演を楽しみにしていたお客様には、ご迷惑をおかけいたしますとともに、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場 営業担当 048-858-5507

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2016.4.25現在/一部未掲載)

(株)与野フードセンター/(株)亀屋/(株)松本商会/(有)香山壽夫建築研究所/埼玉新聞社/埼玉りそな銀行/(株)パシフィックアートセンター
(株)アサヒコミュニケーションズ/FM NACK5/東京ガス(株)/カヤバシステム マシナリー(株)/(株)タムロン/(株)十万石ふくさや/森平舞台機構(株)
東芝エルティエーエンジニアリング(株)/埼玉トヨタ自動車(株)/(有)齋賀設計工務/武蔵野銀行/浦和ロイヤルパインズホテル/アルピーノ村/国際照明(株)
埼玉スバル/桶本興業(株)/(株)佐伯紙工所/(株)太陽商工/(株)しまむら/不動開発(株)/ビストロ やま/埼玉縣信用金庫/(株)栗原運輸/彩の国SPグループ
(有)プラネッツ/関東自動車(株)/(株)デサン/セントラル自動車技研(株)/丸美屋食品工業(株)/ボラスグループ/ひがし歯科/埼玉トヨペット(株)
公認会計士 宮原敏夫事務所/(株)価値総合研究所/(株)埼玉交通/(医)顕正会 蓮田病院/(株)ウイズネット/サイデン化学(株)/アイル・コーポレーション(株)
五光印刷(株)/旭ビル管理(株)/ヤマハサウンドシステム(株)/(株)エヌテックサービス/(株)クリーン工房/(株)つばめタクシー/(株)サンワックス/(株)綜合舞台
(一財)さいたま住宅検査センター/国大グループホールディングス/(株)NEWSエンターテインメント/オーガスアリーナ(株)/イープラス/六三四堂印刷(株)
(医)榎会 林整形外科/埼玉県整形外科医会/(医)山粋会 山崎整形外科/サンケイリビング新聞社/(株)三和広告社/(株)セノン/ショッパー/(株)松尾楽器商会
JA埼玉県中央会/日本大学芸術学部/(株)川口自動車交通/(株)ホンダカーズ埼玉/ファミリーマートあすまや/(有)杉田電機/丸茂電機(株)
太平ビルサービス(株)さいたま支店/(株)片岡食品/(株)協栄/(株)ヨコハマタイヤジャパン/NTT東日本 埼玉事業部/チャコット(株)/(株)平和自動車
光陽オリエントジャパン(株)/埼玉建設(株)/さくら Music Office/クワバラ・パンぷキン/駒橋内科医院/東和アークス(株)/テレビ埼玉/日本ピストンリング(株)
金井大道具(株)/国立大学法人 埼玉大学/(株)七越製菓/ビーンズ与野本町/(一社)埼玉県経営者協会/(株)コマーム/(株)原一探偵事務所/(株)ファーストハウジング
飯能信用金庫/川口信用金庫/青木信用金庫/美術商(株)つくば/(株)和幸楽器/淑徳与野中学・高等学校/新日本ハウス(株)/埼玉栄中学・高等学校/大栄不動産(株)
(株)アップオンリー AD/埼玉東和薬品(株)/相川宗一/(株)ハイディ日高/浦和実業学園中学・高等学校/松林幸子

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507



画●磯良一

ユンケルください

文●岩松了

聞き間違い、というのはたまにある。先日『家庭内失踪』という芝居をやっていた私だが、その楽屋は、同じ部屋のカーテンで仕切られたところにメイクのための部屋が設えてあった。楽屋にいるとメイクさんと女優さんの会話がカーテン越しに聞こえてくるわけだった。メイクさんはまだ少女の面影を残す二十歳そこそこの人。その少女のような声がこう言うのが聞こえてきた。「娘がねえ」

「え!？」となった私。その前後の言葉をちゃんと聞けなかった私に問題があると言えばあるのだが、当然のようにそのメイクさんに「え、娘がいるの?」と聞いた私。女優さんとの会話を反芻したメイクさん。カラカラと笑って曰く「ああ、それ、虫眼鏡!」。まあ、笑ってすむ聞き間違いだった。

その大阪公演で梅田のホテルに宿泊して、あたりを散歩している私。決まってることを思い出す通りがある。まだその店はある。

これは、聞き間違いではなく、読み間違い。

もう何年も前、やっぱり大阪公演のとき。私は疲れ果てていた。かっぱ横丁というガード下にそった店舗がならんでいる一角があり、その横丁を抜ける細道が何本かある。私はあの時、疲労回復、疲労回復とつぶやくように歩いていたと思う。あった、薬局! 梅田ナカイ薬局とある! 私は入った。しばらく無自覚に店内を見回していた。が、ふと、その店内に並んでいるのがクスリではなく、ギター、またギター、アンプ、などであることに気づいた。ん? オレはユンケルを買おうとしてたはずだぞ。そして、やっと自覚した。薬局ではなく楽器と書いてあるんじゃないか! 梅田ナカイ楽器!

別にそのことで恥をかいたというでもない。私は楽器を見たくてその店に入ったのだとしか見えなかったろう。だって「ユンケルください」と口走ったわけでもないから。ただ自分で自分に呆れただけのこと。

よく言う《似て非なるもの》。笑ってもいいが、病の入り口かもしれない、と思ったあの時。いや、そう、今回は言わなくてよかったというセリフについての話です。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。

さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』の劇作を手掛けた。